

【 学会発表報告 】

紙屋朋子先生、日本内科学会信越地方会（松本市、10月2日開催）で見事に学会デビューを果たしました。

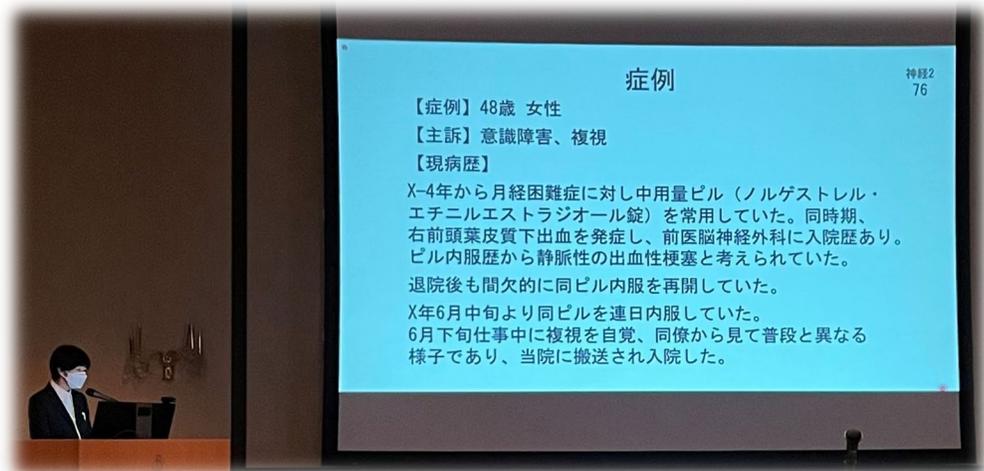
荻根沢先生の熱血指導の下、ピル服用による脳静脈血栓症の発症リスクについて講演しました。落ち着いた口調で大変すばらしい講演でした。

紙屋先生コメント

「会場で発表することができ貴重な経験になりました。」

荻根沢先生コメント

「とても上手に発表し、質問にもしっかり返答することができました。」



地方会演題詳細

例会	第151回日本内科学会信越地方会
演題番号	76
タイトル	中用量ピル内服による脳静脈洞血栓症を繰り返した1例
演者・共同研究者	信楽園病院脳神経内科 ○紙屋 朋子, 荻根沢 真也, 大原 浩司, 下畑 光輝, 渡部 裕美子, 田中 一
内容	【症例】48歳, 女性【主訴】意識障害, 複視【既往歴】X-4年から月経困難症に対し中用量ピル(ノルゲストレル・エチニルエストラジオール錠)を常用していた。同時期, 右前頭葉皮質下出血を発症し他院入院加療歴あり。【現病歴】X年6月中旬より, 中用量ピルを連日内服していた。6月下旬, 仕事中に複視症状を自覚, 同僚からみて普段と異なる様子であり当院に搬送され入院した。【所見・経過】体温37.3度, 血圧161/89mmHg, 頭痛訴えあり。神経学的にはJCS I-1, 右眼外転制限および左眼内転制限, 軽度の構音障害を認めた。頭部CTV, 造影MRVで上矢状静脈洞, 左横静脈洞, 左皮質静脈の部分閉塞を認め, 頭部MRI拡散強調画像, FLAIR画像では左頭頂葉に梗塞と皮質下出血を認めた。血液検査ではD-dimer 8.5 μ g/dと上昇し。抗リン脂質抗体, プロテインS活性, プロテインC活性, AT3%(いずれも正常範囲だった。ヘパリンNaによる抗凝固療法を行い臨床症状の改善を認めた。【考察】中用量ピル内服により脳静脈洞血栓症を繰り返した症例を経験した。ピルは月経困難症, 避妊, 子宮内膜症等の治療で昨今頻用されるが, 血液凝固能が亢進し脳静脈血栓症をはじめとする血栓症を生じうることから, これらの既往例では禁忌とされている。服薬再開により本例のように再発することがあり徹底した休薬指導が必要である。
分類	神経
キーワード	脳静脈洞血栓症, 中用量ピル